

平和への思い

～広島平和ツアー体験記～

半田市は、全国に先駆けて非核平和の実現に関する議会決議を行いました。また、日本非核宣言自治体協議会並びに平和首長会議にも加盟し、非核平和の実現に向けて様々な取り組みを行っています。

その取り組みの一つとして、次代を担う若者たちに平和の大切さを知ってもらうための「広島平和ツアー」を実施しています。

今年は、亀崎中学校と成岩中学校の生徒8人が体験学習を行いましたので、その体験記を紹介します。

また、原爆パネル展にあわせて、市民のみなさんに作っていただいた6千羽の折鶴を、平和を祈念する「千羽鶴」として、中学生が広島へ届けました。

みなさんご協力ありがとうございました。

神谷知花さん(亀崎中学校2年)

「核兵器はそのときだけではない。一生続いていく。」これは、私が体験して一番心に残ったことです。原爆は、体だけでなく人々の心にも恐ろしい影響を与え、長い年月にわたり人々を苦しめていくものなのだとことを知りました。広島平和公園を見学して、原爆のものすごい威力、恐ろしさ、そして人々への影響を目にしました。皮ふがとけて服の模様が体に映っていたり、皮ふが垂れ下がったりしている人。秒速四百メートルの速さの爆風で広島の間がめちゃくちゃになっていく様子。あまりの悲惨さに目の前の光景が信じられなくなりました。一つの核兵器によって傷つけられてしまった広島の傷は一生残ってしまう気がします。このようなことはもう二度とあってはならないと思います。戦争のない平和な社会を築いていきたいと強く思いました。

今の私にできることは、体験で学んだことを多くの人に伝えることです。少しでも多くの人にこの事実を伝えていきたいです。



末久七菜さん(成岩中学校2年)

今から七十年前、戦争があったことを実感できなかった私は、原爆が投下された広島の実地へ行き、原爆ドームや、原爆資料館を自分の目で見て、改めて戦争の悲惨さや平和の大切さを感じました。

原爆資料館では、焼けこげた三輪車や弁当箱、他にもボロボロになった中学生の制服など、数々の遺品を見たり、全身が、焼けただれた人の写真を見て、大きな衝撃を受け、戦争の恐ろしさが伝わってきました。

また、ガイドさんから「平和の時計塔」は、声を出ることができない原爆ドームのかわりに、毎朝八時十五分になると鐘を鳴らして、原爆の悲惨さを訴えていると聞きました。実際に鐘の音を聞いた時は、胸にジーンと響いて、二度と戦争を起こしてはいけないと、強く思いました。人類史上、最悪の悲劇を決して忘れてはいけないと思います。今ある「当たり前」な生活に感謝することの大切さを感じ、永遠に平和が続くことを祈ります。